



自社にとっての“最適解”を求めて。

ネットリンクス株式会社(岡山県岡山市)

IT活用による業務効率化、基幹システムの導入、経理のアウトソーシングなど、ITと会計の両面から中小企業を支援するネットリンクス。働きがい“岡山一”を目指す前田洋一社長にお話を伺いました。



「当社は岡山県近隣の中小企業を中心に、ITと会計の二つの側面から業務支援しています。ITと会計はセツトではありません。それぞれ独立した依頼で動いていますが『両面に精通しているからこそ』というメリットや、強みは多いと思います。例えば『ペテランの経理職員が辞めて困っている』という企業さまから、会計業務のコンサルティングを依頼されるのですが、アナログ業務のデジタル移行は一般的な会計事務所より相当上手いと思います(笑)」

その結果、そのまま継続して会計や総務部門のアウトソーシングを任されることが多いのだと、前田社長は話します。

「ITが進化したおかげで、条件や環境が整っていればという前提ですが、理屈としては日本中から仕事を受けられます。実際、東京で多店舗展開しておられるサービス業の企業さまのバックオフィスを任されていますし、その点でもITに精通していることが活かされていると思います。そのIT

部門に関しては、簡潔にいうと『バックオフィス(総務・人事・経理・財務など)のユーザーエリアを得意とする会社』です。強みとしては、どのメーカーの製品でも扱えるため、お客さまの環境に最適なスペックとコストで提案できることです」

クラウドやテレワーク、DXにRPA^{※2}と、技術は次々と進化していますが、大切なのは「自分たちに合っているかどうか」だと前田社長は断言します。

「例えばリモートワークも、メリット・デメリットを理解して導入しなければフィットしません。当社の場合は7年ほど前、ご主人の転勤に合わせて引越すことになった社員に合わせて導入し、そこから少しずつアップグレードしていきました。自社と同時に、お客さまのリモート化を支援していくうちに、業種や職種、業務や個人の適性に「リモートとの相性」があると分かりました。一見無理だと思われる業種で『実は相性がいい』ということもありますから、画一的、強制的に「リモートワークありき」で進めるのではなく、その会社、そのチームにとっての一番見つけることが成功の鍵なのだと思います」

健康経営も同様かもしれません。11年前、代表になった前田社長は「働きやすさ、働きがいを岡山一」と目標を掲げ、社内改革に「自分たちに

合った形で取り組みました。

「スタッフの健康を考えるようになったきっかけの一つは、2015年秋に開催された『第一回おかやまマラソン』です。私は『走るかボランテアをするか、なんらかの形で参加しよう』と、全スタッフに呼びかけました。数時間でも元気に満ちあふれた人間に囲まれると、そのパワーが自分に入ってくる。そのことを私自身が何度も体感してきたからです。実際、大会が終わると皆が清々しい顔になっていました」

その顔を見て、前田社長は「もっと皆の健康を考えよう」と決意し、以降、フルマラソンやリレーマラソン、ウォーキングラリーなど、面白そうと感じる大会を見つけてはスタッフに声をかけました。

「それらの大会を『イベントとして楽しむ』ことで、身体的な健康以上にメンタル面でのプラスが大きいように思います。また6年前には、オフィスにスタンディングデスクを取り入れ、デスクワークを「立ち仕事」に変えました。もちろんこれも強制ではありません。立ちたい人が立てばいい、座りたいときは座ればいい、そのようなやり方です。ただ、立って仕事をするようになってから「調子がいい」というスタッフは多いですね」

また、前田社長は働きやすさの物差しを「主婦が働きやすい職場」だと考えました。

「時差出勤に時短勤務、有給も1時間単位で取れるようにしました。でも、今も何が正解なのかは分かりません。あまりにも自由にし過ぎると、生産性は落ちます。そこを落とさないうように、どう両立していくかが重要だと思っています。働きやすさをもたらす「無形の利益」も大きいのですが、やはり「数字」に表れる利益は重要です。それが「プロ」だからです。『岡山一働きやすい会社』は、自己採点では達成できたと思います。問題は『岡山一働きがいのある会社』ですよ。そもそも働きがいとは何か、答えは人それぞれだと思いますが、私は本当の意味で『プロになること』が、一番の働きがいになると思うのです」

だからこそ前田社長は、若い世代のスタッフに「この会社を辞めても一人で食べていける人間になってほしい」と、積極的に語りかけます。

「私は高校野球とプロ野球が仕事より好きなのですが(笑)、喩えるなら当社はまだ「高校野球の強豪校」でしょうか。ある名監督が言った「アマは和して勝つ。プロは勝つて和す」という言葉のように、私たちはステップアップして「プロチーム」を目指す段階に来ている気がします。一人ひとりにプロとしての自覚も実力もあり、プロの仕事をした結果、さらに会社の雰囲気も良くなっています。それが今、私の思い描く理想像なのです」



健康経営に取り組む企業を表彰する「DAIDO KENCO AWARD 2023」で、表彰された企業さまにインタビューしました!



企業 DATA

所在地 岡山県岡山市北区表町 1-7-15 パークスクエア SHOWA 3F
代表者 代表取締役 前田洋一
設立 1989年(平成元年)
事業内容 バックオフィスソフトの販売・指導・保守、テレワーク導入支援、経理代行、ホームページ作成等
Web サイト <https://www.net-links.co.jp/>

*1:ユーザーの目的に応じてハードウェアやソフトウェア、インターネットなどの情報システムを活用する方法。または、それらのコンサルティングや技術、サービスの総称。
*2:ロボティック・プロセス・オートメーション。これまで人間のみが対応可能と想定された高度な作業や、人間がパソコン上で日常的に行なっている作業を自動化すること。



大同生命は、健康経営に取り組む中小企業を応援します!

健康経営に取り組む中小企業は近年増加傾向にあります。そこで「健康経営に積極的に取り組んでいる企業をより一層支援したい」「健康経営にこれから取り組む企業に、始めるきっかけを作りたい」との思いから、大同生命独自の表彰制度「DAIDO KENCO AWARD」を創設しました。

特設サイト

該当された企業さまの取り組み事例を、特設サイトに紹介していますので、ぜひご覧ください! どなたでもパソコンやスマートフォンの当社Webサイトからご覧いただけます。

<https://daido-kenco-award.jp>



※「健康経営®」は、NPO法人健康経営研究会の登録商標です。